

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
2024 年度事業報告書

I 活動報告

2024 年度（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）は、当協会にとって公益社団法人としての第 12 期となり、定款・規程・規則に則った協会運営を進めた。

2028 ロサンゼルス・オリンピックにてフラグフットボールが追加競技と認められたことから、今年度より日本オリンピック委員会（JOC）の正加盟団体に承認された。また、定款の変更により、アメリカンフットボールの派生競技としフラグフットボールを定義し、国内唯一の競技統括団体としての位置づけを明確にし、さらにフラグフットボール選手の管理統括のため、会員登録制度を始めた年でもあった。

講習会、国際大会、国内大会など、2024 年度事業計画に掲げた事業は、予定通り概ね遂行することができた。

とりわけ国際大会においては、2024 年 6 月にカナダ・エドモントンで開催された「2024 IFAF U20 アメリカンフットボール世界大会」では、アメリカを破りカナダに次ぎ準優勝を、8 月にフィンランド・ラハティで開催された「2024 IFAF フラグフットボール世界選手権」では、女子チームがアメリカ、メキシコに次ぎ 3 位（3 位決定戦で、オーストリアを撃破している。）になり日本の競技力をアピールする結果となった。

1) 日本スポーツ協会公認指導者養成事業

定款第 5 条第 1 項第 1 号に関連する事業として、公益財団法人日本スポーツ協会が主催する公認指導者養成事業の一つとして、アメリカンフットボール競技に関するコーチ資格の専門科目講習会を開催した。

4 日間の講習プログラムを 2 つの日程で組み、東京会場と九州会場の 2 会場を設定した。座学はオンライン形式で、実技は会場で開催し、受講者は合計 17 名であった。

また、「スポーツコミュニケーション」に焦点をあてて更新講習も行った、

① 東京会場

【専門科目 1 (座学)】

- ・ 7 月 6 日（土） 【第 1 日】 JAFA 事務所会議室（座学オンライン形式）
- ・ 7 月 7 日（日） 【第 2 日】 JAFA 事務所会議室（座学オンライン形式）

【専門科目 2 (実技)】

- ・ 7 月 13 日（土） 【第 1 日】 早稲田大学東伏見キャンパス(対面)
- ・ 7 月 14 日（日） 【第 2 日】 早稲田大学東伏見キャンパス(対面)

② 九州会場

【専門科目 1 (座学)】

- ・ 1 月 11 日（土） 【第 1 日】 JAFA 事務所会議室（座学オンライン形式）
- ・ 1 月 12 日（日） 【第 2 日】 JAFA 事務所会議室（座学オンライン形式）

【専門科目 2 (実技)】

・1月25日（土） 【第1日】 久留米大学医学部キャンパス(対面)

・1月26日（日） 【第2日】 久留米大学医学部キャンパス(対面)

③ 更新講習

・7月28日（日） 【更新講習】 JAJFA 事務所会議室（座学オンライン形式）

※以上は、JSPO の公認指導者講習事業助成金を受けて実施した。

2) コーチクリニック、フットボール教室

定款第5条第1項第1号に関連する事業として、コーチクリニック、フットボール教室を開催した。

重大事故の未然防止等、選手の安全を守る、競技継続の観点から、ユース（小中学生）世代への技術指導や体力測定などを盛り込み、同年代の競技力向上及び競技継続に繋げる。また高校生、あるいは大学入学後に初めてフットボールを始める選手たちを対象に下記の内容に沿った研修を行っている。

公認指導者養成講座専門課程のテキストである「ショルダータックリング」ならびに「ヘッズアップ・ブロッキング」を活用した研修や、JAJFA が監修、発行する「からだづくりハンドブック」を活用し、からだづくりプログラムも並行して進めた。

加盟団体からの要請に基づき「JAJFA フットボールアカデミーキャンプ」「高校生アスリートクリニック」（新たな選手の発掘）を実施した。

【開催されたクリニック】

・2024年5月18日（土）：ヘッズアップアカデミー（東海学生連盟）@名古屋商科大学日進キャンパス（73名参加）

・2024年6月 1日（土）：ヘッズアップアカデミー（東北学生連盟）@シェルコム仙台（71名参加）

・2024年7月 7日（日）：ヘッズアップアカデミー（北海道学生連盟）@札幌学院大学（61名参加）

・2024年7月31日（水）：高校生指導者クリニック（日本高等学校連盟）オンライン形式（約100名参加）

・2025年2月22日（土）：高校生指導者クリニック（北陸学生連盟）@北陸学院高校（46名参加）

・2025年2月23日（日）：高校生指導者クリニック（北陸学生連盟）@小松大谷高校（65名参加）

※以上は、JSC スポーツ振興くじ助成の助成金を受けて実施した。

3) 川崎市まちづくり推進連絡調整会議参加とアメリカンフットボールの普及活動

定款第5条第1項第1号及び第11号に関連する事業として、川崎市のまちづくり推進連絡調整会議に参加し、アメリカンフットボールを活用した川崎市のまちづくりと、川崎市におけるアメリカンフットボールの普及発展に努めた。

2007年、川崎市と本法人との間で「アメリカンフットボールを活用した川崎市のまちづくり」

に関する包括協定を締結し、川崎市主導の「まちづくり推進委員会」に参加してきたが、2015年3月に富士通スタジアム川崎が完成したことから、2016年2月に川崎市関連団体、川崎市市民団体、アメリカンフットボール競技団体が一体となって、富士通スタジアム川崎を活用したまちづくりを推進するために、「アメリカンフットボールを活用したまちづくり推進連絡調整会議」を発足した。

市制100周年にあたる2024年度は、川崎市のホームタウンチームである富士通フロンティアーズとOriental BioシルバースターのXリーグ秋季公式戦を「川崎市市制100周年記念試合」として、川崎を拠点に活動するダンスチーム「KADOKAWA DREAMS」のハーフタイムイベントを行うなど盛大に開催した。

また、前年度に引き続いて、XリーグセミファイナルをUvance とどろきスタジアム by Fujitsu（等々力陸上競技場）で開催し、多くの川崎市民に観戦いただけるよう、市民招待を実施した。

※以上は、川崎市からの助成金を受けて実施した。

4) 国際競技力向上に向けた事業

定款第5条第1項第2号に関連する事業として、コロナ後の国際活動をいよいよ本格的に実施する年度となった。特に2028ロサンゼルス・オリンピックに向けて、オリンピックの輩出は業界初のチャレンジであり、オールフットボールとして力を結集し、JOC選手強化事業を中心とした体制づくりを実行した。

また、数年ぶりのタックルフットボールの日本代表海外派遣事業もあり、日本代表候補選手の育成、競技力向上を目指し、さらに活動を通して指導者の交流や指導力の向上のため、有力選手を募りクリニックや合同練習を行った。

① フラグフットボール世界選手権大会（世代：18歳以上、男女）

2024年8月にフィンランド・ラハティで開催されたIFAF主催のフラッグフットボール世界選手権（FFWC）に、男女2チームを派遣するため日本代表選手の発掘・育成・強化練習を実施した。女子チームは3位に、男子は11位となった。

・2024年4月から8月上旬にかけFFWCに向け、東日本地区合同練習、西日本地区合同練習を逐次行った。

※以上は、JOCのNF強化助成金を受けて実施した。

② フラグフットボール日本代表候補、合同練習（世代：18歳以上、男女）

2024年8月のFFWC後、レビューを行い、JOC選手強化プログラムに基づき、2024年11月から3月まで、2025年のアジア・オセアニア大会、ワールドゲームズに向け、新たなJOC強化選手の発掘も併せ、東日本地区合同練習、西日本地区合同練習を逐次行った。

※以上は、JSCのスポーツ振興くじ助成金を受けて実施した。

③ 15U・17Uフラッグフットボール国際試合（世代：14～17歳、男女）

2024年7月にアメリカ・ロサンゼルスで開催される、UAS Football主催のJunior International Cup（JIC）に、15歳以下、17歳以下、4チーム（男女各2チーム）45名を派遣するため、2024年4月から6月にかけて、選手の育成・強化練習を実施した。また、2025年1月

から3月にかけて次期のJICに向け、選手の発掘・育成を行った。

※以上は、JSCのスポーツ振興くじ助成金を受けて実施した。

④ フラッグフットボール日本選手権による選手発掘（世代：6歳以上）

日本選手権を、2024年12月に小・中学生の部を、2025年3月に高校生以上の部を開催しその中で有望な選手の発掘をするため、JOC ナショナルコーチを派遣した。

⑤ U-20 アメリカンフットボール世界選手権大会（世代：20歳以下）

2024年6月20日～7月1日にカナダ、アルバータ州エドモントンで開催されたU-20世界選手権大会に向けた、トライアウト及び合同練習を行い、U-20日本代表候補選手の発掘及び強化を行った。

【Phase 1 コンバイン（測定／スキル）】

- ・2024年3月23日(土)～24日(日)：関東地区（東京ガス深川 Gr.）
- ・2024年3月30日(土)～31日(日)：関西地区（関西学院大学）

【Phase 2 スキルチェック（チーム）】

- ・2024年5月3日(金)～4日(土)：関東地区（東京ガス深川 Gr.）
- ・2024年5月18日(土)～19日(日)：関西地区（関西学院大学）

【遠征】

- ・2024年6月19日(水)～7月2日(火)U-20世界選手権大会カナダ遠征

※以上は、JSCのスポーツ振興くじ助成金を受けて実施した。

⑥ クロスオーバーアスリート合同測定会（世代：16歳以上）

日本は少子高齢化社会で、若者が減少していることは既知のことである。あわせて高校でスポーツクラブ活動を行っていた若者が、大学入学を機にスポーツから離脱してしまう比率が非常に高いことが判明している。離脱の理由は様々であろうが、その中には何らかのスポーツを続けたい若者もいることは確かである。そうしたことを踏まえ、他競技経験者の中からアメリカンフットボール選手として活躍できる人材を発掘し、大学で競技に取り組んでもらうモチベーション、インセンティブを付与できるよう、高校生を対象にNFL コンバイン種目で測定し、アメリカンフットボール未経験を踏まえた体験会を実施した。

- ・2024年度は学生連盟8地区全てでの実施を目指したが最終的に5地区の開催となった。
- ・2024年7月27日（関東地区@アミノバイタルフィールド）
- ・2024年7月28日（北陸地区@金沢市営球技場）
- ・2024年8月10日（関西地区@MK タクシーフィールド・エキスポ）
- ・2024年8月10日（九州地区@久留米大学医学部総合 G）
- ・2024年9月7日（中四国地区@広島広域公園第二球技場）
- ・2025年2月22日・23日（北陸地区で2回目を開催）

⑦ 地域クラブ活動支援（世代：16歳以上）

長期育成プログラムの趣旨に沿った、高校生クラブ活動を担う団体に対して、自立したクラブを目指し、立ち上げや活動等について各参加団体と協力・連携しながら実際の支援を行うために各地域の現場の指導者にヒアリングを行った。

⑧ 若年層の競技人口拡大のための指導者支援及び環境整備支援（小中高世代）

若年層を指導する指導者のクリニックを実施及び、若年層がフットボールを選択するよう、大学・社会人を含めたオールジャパン体制でフットボール界全体の運営最適化に向け支援を行う。小中学生の育成ビジョンを策定した。

⑨ 海外リーグへ挑戦する選手の発掘（世代：20歳以上）

海外リーグ参加へ挑戦出来る環境を整えることにより、国内トップレベル選手のモチベーションアップを図る。世界のトップレベルである北米のプロリーグへの挑戦を支援するための具体的施策について検討を開始した。

⑩ LTAD プログラム策定

日本代表選手及び、海外プロリーグに到達可能性のある選手の発掘及び育成に向けた環境整備に関わる調査の実施、及びその分析を通じた知見の獲得を目的として筑波大学の松尾博一助教から学術指導を受ける契約を締結し4年目を迎えた。この学術指導に基づいて Long Term Athlete Development（“LTAD”＝「長期的なアスリート育成」）プログラムを策定中である。2024年度は小中学校世代のプログラムの検討の為にこの世代の指導者にヒアリングを行った。

⑪ 高校指導者向け講習会（再掲：2）コーチクリニック、フットボール教室）

若年層の競技人口拡大のために指導者を支援することが重要との観点から、日常的に極めて大きな負荷がかかっている高校の指導者に向けて現場支援の一環として、クリニックを開催した。

・2024年7月31日（水）：Zoom形式で高校生指導者クリニックを開催

講師：NFL クリーブランド・ブラウンズ元アシスタントコーチの小坂恭平氏

※高校指導者向け講習会は、JSC スポーツ振興くじ助成の助成金を受けて実施した。

5) アメリカンフットボール日本選手権「ライスボウル」、フラグフットボール日本選手権の開催

定款第5条第1項第3号に関連する事業として、アメリカンフットボール日本選手権「第78回ライスボウル」及び「フラグフットボール日本選手権」を主催した。

ライスボウルは、社会人同士の対戦となりファンが求めていた緊迫感、試合の質の高さを十二分に見せてくれた試合内容であった。結果はパナソニックが富士通を34対27で退け、9年ぶりの日本一に輝いた。来場者は17,885人となり、さらに増やす工夫を考えたい。

フラグフットボール日本選手権は、まだチケット販売を行う段階に来ていないが、インターネット中継やアーカイブ配信を行うことにより、ファンの増嵩を図り2028ロサンゼルス・オリンピックを目指すフラグフットボール JAPANを支える基盤の一翼となった。

6) 高校連盟及びユース・フットボール総括団体の主催試合等に対する後援ならびに助成
定款第5条第1項第3号に関連する事業として、以下の大会を後援、助成した。

・高等学校日本選手権大会決勝戦、（第55回クリスマスボウル）

2024年12月22日（日） MK タクシーフィールド・エキスポ

・チェスナットリーグ決勝戦、（第37回チェスナットボウル）

2024年12月22日（日） MK タクシーフィールド・エキスポ

・東西地区選抜高等学校アメリカンフットボール対抗戦（第13回ニューイヤーボウル）

2025 年 1 月 12 日（日） 富士通スタジアム川崎

- ・ 関東選抜高等学校アメリカンフットボール対抗戦（スティックボウル）

2024 年 12 月 28 日（土） 駒沢第二球技場

- ・ 第 11 回日本中学生アメリカンフットボール選手権

2025 年 1 月 13 日（月・祝） 富士通スタジアム川崎

7) 国際試合の主催・後援

定款第 5 条第 1 項第 4 号に関連する事業として、後援する、国際試合が 2024 年度はなかった。

8) 国際試合へのチーム派遣

定款第 5 条第 1 項第 4 号に関連する事業として、下記のフラッグフットボール国際試合に、男女日本代表チームを派遣した。

フラッグフットボールは、2028 ロサンゼルス・オリンピック追加競技に決定し、また国際アメリカンフットボール連盟（IFAF）は、国際オリンピック委員会の正加盟競技団体となった。

しかし、オリンピック出場権利を得るためには、フラッグフットボールの世界ランキングを上げる必要がある。そのために 2024 年フラッグフットボール世界選手権大会に出場して好成績を修める必要があった。結果として、世界ランキングは女子 3 位は変わらず、男子は 10 位と一つアップした。

アメリカンフットボールの世界大会もカナダで U-20 大会が 6 年ぶりに開催され、世界 7 カ国が参加し、カナダに次ぎ準優勝を収めた。

① 国際連盟主催のフラッグフットボール・世界選手権大会

- ・ 日 程：2024 年 8 月 27 日～30 日（遠征日程 8 月 23 日～9 月 1 日）

開催地：フィンランド・ラハティ

出場国：男子 32 ヶ国、女子 23 ヶ国

試合結果：女子は 3 位、男子は 11 位

② U-20 アメリカンフットボール世界選手権大会

- ・ 日 程：2024 年 6 月 20 日～7 月 1 日（遠征日程 6 月 19 日～7 月 2 日）

開催地：カナダ・エドモントン

出場国：男子 7 ヶ国（8 チーム）

試合結果：2 位

9) 国際試合への審判員の派遣

定款第 5 条第 1 項第 4 号に関連する事業として 2024 年 8 月にフィンランド・ラハティで開催された「フラッグフットボール・世界選手権大会」に、IFAF からのオファーもあり、審判員 1 名を派遣した。

10) 競技規則の制定・告知・頒布

定款第 5 条第 1 項第 5 号に関連する事業として、競技規則委員会（2024 年 3 月 30 日開催）の

決定に基づき、アメリカンフットボール競技の2024年度公式規則について、2023年度公式規則からの変更内容を決定し、4月発行の2024年度・公式規則変更予定報及び7月発行の2024年度・公式規則変更内容・決定報を通じて、加盟団体に周知した。

また、8月に2024-2025アメリカンフットボール公式規則・公式規則解説書を発行した。

- ・2024年4月4日、「2024年度・公式規則変更予定報」として変更内容の概要を告知した。
- ・2024年7月4日、「2024年度・公式規則変更内容決定報」として2023年度公式規則からの変更内容、関係する条文の変更及び追記内容を告知した。
- ・2024年8月1日、「2024-2025アメリカンフットボール公式規則・公式規則解説書」を発行した。公式規則の判定基準について記した「オフィシエイティングスタンダード」を今回から第2部として追加した。
- ・予定報、決定報、公式規則・公式規則解説書はいずれもPDFを日本協会のホームページに掲載した。

1 1) 安全対策に関する周知活動及び医・科学研究会

① 安全対策全国会議

定款第5条第1項第6号に関する事業として、2025年2月15日（土）に全国の加盟団体の安全対策担当者の参加を得て、「第32回Jafa安全対策全国会議」をオンライン形式で開催した。各団体のこの1年間の安全対策活動と、重大事故、試合時の外傷の報告及びドーピング検査報告、次年度予定報告があった。

重大事故としては、急性硬膜下血腫がほとんどを占めており、新型コロナウイルス感染症に伴い練習不足であることが起因しているのではないかと、普段からの首の筋肉を鍛えつつ、HUF（ヘッズアップフットボール）に徹した当たり方を指導することが大事であるなどの詳細な検討を行った。

2025年1月3日のライスボウルにて行われたドーピング検査の結果は4名全員陰性であった、次年度もライスボウルにてドーピング検査が行われる予定である。また、国際試合では検査が行われることを前提として教育等準備する必要があるとの報告があった。

② 日本アメリカンフットボール医・科学研究会

定款第5条第1項第6号に関する事業として、2025年2月16日（日）に、「第27回日本アメリカンフットボール医・科学研究会」を実出席とオンラインのハイブリット形式（会場：北里研究所病院 薬学部2号館3階2301講義室）で開催し224名の参加があった。

日本代表チームの医療サポート、重大事故報告、最新防具の情報、酷暑対策等の情報を共有した。

- ・オンライン参加 117名
- ・会場参加 107名（学生22、社会人50、協賛社11、講師司会15、関係者9）

1 2) ドーピング検査

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、（公財）日本アンチ・ドーピング機構の指定によりライスボウルにおいて専門機関である日本アンチ・ドーピング機構（JADA）にてドーピング検査を行った。

検査の結果陽性例は無く、アメリカンフットボールがクリーンスポーツであることを広く発信できた。

※以上は、JSC スポーツ振興くじ助成の助成金を受けて実施した。

1 3) アンチ・ドーピング講習会

定款第 5 条第 1 項第 6 号に関連する事業として、2024 年度は下記の通り、実出席又はオンライン形式でアンチ・ドーピング講習会を開催した。

多くの指導者、選手はアンチ・ドーピングの趣旨は理解しているものの、禁止薬物に関する知識、持病等で処方を受けている薬物の事前申請（TUE）、居場所情報提出の手続きなどについて十分な知識を有しているとは言い難く、啓発活動の一環として講習会を開催した。

- ・U-20 アメリカンフットボール世界選手権大会向けアンチ・ドーピング講習会

日時：2024 年 5 月 24 日

対象者：代表候補選手及びスタッフ、71 名

- ・フラッグフットボール・ジュニアインターナショナルカップ向けアンチ・ドーピング講習会

日時：2024 年 6 月 20 日

対象者：選拔選手及びスタッフ、61 名

- ・フラッグフットボール・世界選手権大会向けアンチ・ドーピング講習会向けアンチ・ドーピング講習会

日時：2024 年 6 月 21 日

対象者：代表候補選手及びスタッフ、37 名

- ・フラッグフットボール・世界選手権大会向けアンチ・ドーピング講習会向けサプリメント講習会

日時：2024 年 8 月 9 日

対象者：代表候補選手及びスタッフ、37 名

- ・日本選手権ライスボウル向けアンチ・ドーピング講習会

日時：2024 年 11 月 15 日

対象者：出場可能性のあるチームドクター及びトレーナー、27 名

※以上は、JSC スポーツ振興くじ助成の助成金を受けて実施した。

1 4) 受講者推薦（JSPO 公認スポーツドクター及びアスレティックトレーナー養成講習会）

定款第 5 条第 1 項第 6 号に関連する事業として、日本スポーツ協会が主催する講習会に加盟団体より推薦者を募り、スポーツドクター養成講習会に 4 名、及びアスレティックトレーナー養成講座 1 名の推薦をした。

なお、アスレティックトレーナー養成講座については、（JSPO から推薦は順位をつけて 2 名までとされているため）加盟団体より推薦された 5 名の受講希望者から医・科学委員会に於いて 2 名に絞って推薦し、JSPO の審査で 1 名が受講生となった。

当協会から推薦したドクター、トレーナーが資格取得後に、アメリカンフットボールの現場で安全対策の業務に参画することが目的であり、今後もこの条件を満たす受講者を推薦する。

1 5) アメリカンフットボールに適した競技場の設置促進

定款第 5 条第 1 項第 7 号に関連する事業として、各地の自治体等が球技場を設置する情報収集を心掛けている。2024 年度においてはアメリカンフットボール準専用スタジアム、富士通川崎スタジアムの周辺施設の改修工事が終了し、利用者の利便が図られた。

1 6) CFO 会議への競技規則委員派遣・参加

定款第 5 条第 1 項第 5 号及び第 8 号に関連する事業である。米国の大学（カレッジ）のアメリカンフットボールは、全米大学体育協会（NCAA : National Collegiate Athletic Association）で毎年競技規則が改訂され、それに伴い審判員のメカニクも米国 CFO（College Football Officiating LLC）で改訂されている。

この変更の主旨を正確にかつ迅速に把握するために、毎年 1 月に実施される CFO のフットボール・コーディネーター・ミーティングにオブザーバー参加した。（オブザーバー参加は日本のみ）。この会議で得た情報をもとに**公式**競技規則変更予定報、決定報の発行、及び競技規則書の発行を行った。

ウインター ミーティング

日付：2025 年 1 月 27～29 日

場所：米国 テキサス州ダラス

参加：2 名（競技規則委員会、委員長及び副委員長）

また、上記に加え審判技術取得、向上のために CFO・ナショナル・レフェリー・カンファレンス、及び CFO・ナショナル・インスタントリプレー・クリニックにも関係者を派遣し、日本審判協会内で共有し、日本審判員の技術向上を図った。また、この会議で得た情報をもとに競技規則委員会より 2024 年度・公式規則変更内容・決定報及び 2024-2025 アメリカンフットボール公式規則・公式規則解説書、日本アメリカンフットボール審判協会より 2024 年版 アメリカンフットボール オフィシエーティング マニュアル、日本社会人アメリカンフットボール協会よりアメリカンフットボール インスタント リプレー ケース ブックの発行を行った。

・ CFO・ナショナル・インスタントリプレー・クリニック

日付：2024 年 5 月 9 日～10 日

・ CFO・ナショナル・レフリー・カンファレンス

日付：5 月 10 日～11 日

場所：米国 テキサス州ダラス

渡航者：2 名（競技規則委員会委員長、競技規則委員会が推薦した審判員）

1 7) WEB サイトによる情報発信

定款第 5 条第 1 項第 9 号に関連する事業として、Jafa 専用の WEB サイトをリニューアルし、国内外の競技情報、Jafa が主催する日本選手権ライスボウルの情報、試合結果、Jafa の各委員会の活動に関する情報を発信し、Jafa の法人としての公開情報を掲載した。

① 初めての方

- ・ アメリカンフットボール、フラッグフットボールの基本説明を行った。

② アメリカンフットボール

- ・ 2024 年は U-20 アメリカンフットボール世界選手権大会について報告した。
- ・ 日本選手権ライスボウルについて掲載した。
- ・ 過去の日本選手権のアーカイブを掲載した。

③ フラッグフットボール

- ・ 2024 年は FFWC について報告した。
- ・ 2024 年の日本選手権について報告した。

④ 知る・教わる

- ・ 安全対策として「安全対策ハンドブック」について掲載した。
- ・ 指導者講習会として、講習会の開催告知をした。
- ・ 公式規則書として、最新の公式規則書の販売及びアーカイブを掲載した。
- ・ 殿堂、歴史として、「日本のアメリカンフットボール 90 年の活動記録」を掲載した。
- ・ 殿堂、歴史として、これまでの殿堂受賞者を紹介した。
- ・ アンチ・ドーピングに関する情報を掲載した。

⑤ JAJFA について

- ・ 協会理念を掲載した。
- ・ 定款、規程等を掲示した。
- ・ 役員名簿、社員名簿、協会組織図を掲載した。
- ・ 各年度の事業計画、予算計画及び事業報告、決算報告を掲載した。
- ・ ガバナンス強化として、「ガバナンスコード自己評価説明書」を掲載した。
- ・ JSC 助成事業について、各年度の事業計画、中間報告、実績報告を掲載した。

1 8) 殿堂顕彰

定款第 5 条第 1 項第 10 号に関連する事業として、当協会の前身である日本米式蹴球協会の初代会長などを歴任した浅野良三氏ら 11 人が日本アメリカンフットボールの殿堂入りすることになったことの公表を行った。

殿堂顕彰は、2018 年の第 4 回を例外として約 5 年ごとに実施しており、これまでに 48 人が顕彰されており、顕彰者は今回で 59 人となった。

同時に、日本アメリカンフットボールの殿堂ホームページにて紹介している第 6 回までの殿堂顕彰者の紹介内容を更新し、同時に日本のアメリカンフットボールの歴史紹介ページの 2024 年度分の記録を更新するとともに、2024 年度は日本のアメリカンフットボール 90 周年であり、100 周年への準備を始めた。

また、昨年に引き続き殿堂顕彰者の方々と当協会の関係継続のために、ライスボウルのプログラムを顕彰者、ご遺族、関係者に発送をすると同時に、ライスボウルプログラムに顕彰者の皆様の紹介が載っていることも案内した。

1 9) 関係団体・機関との情報交換・連携

定款第5条第1項第11号に関連する事業として、国際アメリカンフットボール連盟（IFAF）、公益財団法人日本スポーツ協会（JSPO）、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）、独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC）、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（JADA）、公益財団法人日本スポーツ仲裁機構（JSAA）、一般社団法人日本トップリーグ連携機構（JTL）、一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）、公益財団法人日本フラグフットボール協会（JFFO）、特定非営利活動法人日本ワールドゲームズ協会（JWGA）等関係団体・機関と密に情報交換を行い、連携して活動した。

① 国際アメリカンフットボール連盟（IFAF）

2024年度のIFAFの年次総会は12月にスイス・ローザンヌで開催され、寺田会長が出席した。2028ロサンゼルス・オリンピックへの出場国（地域）をどう決定するか、IOCが各競技の各国NFに求めるオリンピック・ムーブメントの実践・継承等にフットボール界としてどのように取り組んでいくか、などが話し合われた。

② 公益財団法人日本スポーツ協会（JSPO）

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格のうち、アメリカンフットボール指導員資格の認定業務を共同で実施するとともに、有資格者の義務研修を実施して資格保有者の資格更新を促した。

また、フラグフットボールに公認指導者資格を新設するための協議を行い、次年度より実施する運びとなった。

スポーツドクター、ならびにアスレティックトレーナーの養成講座の受講生候補者については、公募のうえ選出して推薦した。

③ 公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）

フラグフットボールがオリンピック追加競技となったことから、「NF強化事業」「コーチ設置事業」「アスリート助成事業」など様々な助成を得られた。

④ 独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC）

スポーツ振興センターの助成金事業に応募し、くじ助成事業として「ドーピング検査事業」「ドーピング防止啓発事業」、「ガバナンス強化事業」、「ホームページ作成事業」、「フットボールアカデミー事業」及び「タレント発掘事業」を行った。

⑤ 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（JADA）

日本アンチ・ドーピング機構からの最新情報を得て、アンチ・ドーピング講習会事業を行った。また、日本選手権ライスボウルでのドーピング検査を実施した。

⑥ スポーツ庁

スポーツ庁発出の照会内容については、適時加盟団体にも周知した。

中央競技団体としてガバナンスコードの遵守へ向け定期報告を行った。

また、日本選手権「ライスボウル」の後援をいただいた。

⑦ 一般社団法人日本トップリーグ連携機構（JTL）

エックス・リーグ（社会人アメリカンフットボール協会）が加盟する日本トップリーグ連携機構の会議に寺田会長、渡部理事が参加し、日本トップリーグ連携機構メンバーのエックス・リーグとともにNF（統括団体）の立場から日本における球技スポーツ競技の発展の共同歩調している。

⑧ 一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）

UNIVAS 発出の講習会開催通知などは、加盟学連団体に周知した。

UNIVAS CUP に参加するとともに、医療従事者支援制度を活用し、加盟学連団体の経費負担軽減に役立てた。

協会サイトでの動画配信事業など、様々な取り組みにより競技の普及活動に協力いただいた。

以上

Ⅱ 内部統制体制の整備についての決定及び運用状況の概要

1. 現状整備されている内部統制関連規程

- 社員総会運営規則
- 理事会運営規程
- 入会及び退会に関する規則
- 旅費規程
- 役員等の費用弁償規程
- 役員報酬等の支給基準
- 謝金規程
- 倫理懲罰規程
- 内部通報規程
- 殿堂顕彰規程
- 寄附金等取扱規程
- 会計規程
- アンチ・ドーピング規程
- 個人番号及び個人情報の保護に関する基本方針
- 個人情報及び個人情報の保護に関する基本規程
- 管理運営基金取扱規程
- 日本代表チーム編成規程
- 加盟団体に関する規程
- 印章の管理に関する規程
- 理事等の職務権限規程
- 理事会提出役員選任議案作成に関する基準
- 就業規則
- 委員会規程
- コンプライアンス委員会運営要領
- アスリート&コーチ委員会運営要領
- 法人カード利用規程
- 助成金交付規程
- 利益相反管理規程
- 役員候補者選考委員会規程
- 派生競技会員の入会及び退会に関する規則
- 派生競技会員の会費等に関する規則

2. 2024 年度、内部統制関連規程の改定等

- 入会及び退会に関する規則（改定）
2024 年度定時社員総会（2024 年 6 月 16 日）
- 役員報酬等の支給基準（改定）

2024 年度第 2 回理事会（2024 年 6 月 16 日）

- 派生競技会員の入会及び退会に関する規則（制定）

2024 年度第 2 回理事会（2024 年 6 月 16 日）

- 派生競技会員の会費等に関する規則（制定）

2024 年度第 2 回理事会（2024 年 6 月 16 日）

3. 内部通報関連

2024 年度通報 3 件

2024 年度解決 1 件

重要な事項は、すべて事業報告に記載した。

以上